

# せんだん



## 秋9月、秋の気配がします！



9月も中旬に差し掛かろうとしています。日中はまだ蒸し暑い日が続いていますが、朝夕は少し涼しく思えるようになってきました。確実に秋の到来が感じられる今日この頃です。先週行われた授業参観・懇談会におきましては、たくさんのご参観ありがとうございました。2学期最初の授業参観では、1学期に比べ少し成長した姿が見られたのではないのでしょうか。作品展も同時開催でしたが、どの作品も夏休みの頑張りが伝わってくる素晴らしいものばかりでした。お忙しい中、学校に足を運んでくださりありがとうございました。

## 明日から修学旅行です！

早いもので、明日14日（木）から修学旅行です。長崎市の方へ行きます。初日は原爆資料館等を全員で見学し、2日目はグループに分かれての自主研修となっています。6年生の修学旅行のテーマ「体験・ふれあい・祈り」のもとに1学期から計画を立ててきまし

た。どの子にとっても、充実した修学旅行になることを心より祈っております。

ここで修学旅行での子供と保護者の関わりについて資料がありましたので、紹介したいと思います。

「学校給食」が普及するまで、「弁当」は「母と子の心の絆」を揺るぎないものにするための重要な役割を果たしていた。私の学校にいた榎本輝雄君の詩が思い出される。

かつお 小6 榎本輝雄

けさ 学校に来がけに  
ちょっとしたことから母と言ひ合ひをした  
ぼろくそに母を言ひ負かしてやった母が困っていた

そしたら 学校で 昼になって  
母の入れてくれた弁当のふたを開けたら  
僕の好きな鯉節がパラパラとふりかけてあった  
おいしそうに香っていた

それを見たら ぼくは 今朝のことが思い出されて後悔した

母は 今頃 さみしい心で昼ご飯を食べているかと思うと

すまない心が  
ぐいぐいこみ上げてきた

弁当は母から子への手紙であったのだ。直接出会っているときよりも、もっともっと本当の出会いをさせてくれる心の手紙であったのだ。私はそのことを思い出し、春の遠足があったから間もなく行われた修学旅行の前日に、母親たちに集まってもらい、頼んだ。旅

行の計画を見ると、一食分弁当になっていたからである。

「修学旅行に、お寿司屋さんのお寿司を持たせることはどうかやめてください。別にお寿司屋さんの営業妨害をするわけではありません。お客さんが見えたようなとき、どうか上等のお寿司をたくさん買ってあげてください。しかし修学旅行は大切な学習の機会です。お母さんたちが忙しいことも、よくよく承知しているつもりですが、とにかく大切な学習の機会です。いつもより早く起きてご飯を炊いてください。そして心を込めてしっかり握ったおむすびを作ってあげてほしいのです。そして忙しいのはよくよく承知しているつもりですが、そのおむすびは一つ一つ、どんなに心を込めてくださったのか、それを手紙に書き、弁当に添えてやってほしいのです。」と頼んだ。

弁当は大阪空港近くの会社でとらせてもらった。子供たちは弁当を開くと、びっくりした。大きなおむすびが出てきたからである。しかもおむすびには手紙が添えられていた。その手紙を読んで子供たちはまた感動した。普段、親の言うことも、教師の言うことも聞かないやんちゃな子が手紙を手に、踊って回り始めた。私の隣にいた森本雄二君は、目にいっぱい涙を浮かべておむすびを前に手紙を読み続けた。他の子供たちがおむすびにかぶりつき始めても、なお手紙を読み続けていたが、読み終わると、宝物のように丁寧にたたく胸のポケットに納めた。

「森本君、今ポケットに入れたもの、見せてもらえないかな。」というと

「校長先生、あげるのと違うぜ。すぐ返してよ。」

と言って見せてくれた。

後、子供たちの「修学旅行記」を見るとどの子も弁当のことを書いてない子どもは一人もいなかった。森本君は、その晩、奈良の旅

館に着いてから、寝床でもう一度お母さんの手紙を取り出して読み返し、

「お母さん、無事に奈良の旅館に着いたから安心しておくれ。今、旅館の寝床の中でお母さんの手紙を読み返しているところだ。明日も気をつけて頑張るから、安心しておくれ。おやすみ。」とつぶやいて眠りについたことを書いていた。

守本恵さんという女の子は、

「弁当の包みを開いたら、おむすびが出てきた。お母さんの手紙がついていた。手紙を読み、このおむすび一つ一つにお母さんが、こんなに心を込めてくださっているのかと思うと涙がこみ上げてきた。気がついてみると、私が着ている服も忙しいお母さんが、この修学旅行のために、心を込めて縫ってくださった服であったことに気がついた。改めて着ている服を眺めなおしていると、飾りについて刺繍も、一針一針、お母さんの心がこもっているのだと気づき、私は124人の6年生の中で、一番すばらしい服を着て一番すばらしいおむすびをいただくのだと思い、私もお母さんになるときは、お母さんのようなお母さんになりたいという思いがこみ上げてきた。」と書いていた。

### 東井義雄 「いのちの根を育てる学力」より

離れたときほど、家族や自分を支えてくれている方々へのありがたさを感じることはありません。修学旅行はその意味でも意義のあるものかもしれません。

